

教科:国語 単元名:モチモチの木 おすすめ図書カードを作ろう 学年:3年

タイトル

相手が読んで問いに答えたいような「図書カード」を作ろう

10のキーワード

- ・授業を「ゲーム」というまなざしで捉える
- ・「問いたくなる」心理を想像する

問いストーリー(単元の概要・児童への願い)

<教師のねらい> 「友だちとグループで話し合う活動(読書会)を通して読みを深めていき,おすすめの場面を紹介するだけでなく,周りの人と話したいことをのせた図書カードを読んだ人が,実際に本を読み話したいと思える図書カードを作成させたい。」本を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもつこと(指導要領C 読むこと(1)オ)をねらいとしている。

<主体的に取り組む児童の姿> 「豆太は臆病なのか…?臆病ではないのか…?」それぞれがどう思うのか,一人で読む時には疑問に思わなかったことや,気が付かなかったことも友だちと話しながら答えを見つけ「もう少し読まないと…!」や「もう少し読んだらできそう!」と読書会を通して読みを深めていく。斎藤隆介さんの作品を1冊担当し,相手と話したい事(問い)を見つけ図書カードに書き,図書カードを読んだ人が読みたいと思った本を読んで自分の考えや感想をコメントし,交流を深めていく。

単元計画

授業概要

- 1 読書会のルールを説明する
 - ・豆太はどんな人か,じさまはどんな人かの2つをテーマにして読書会を行う。
 - ・読書会後にもっと話してみたい内容やテーマを出し合う。
 - (図書カードを書く際に問いにつながる)
- 2 読書会 第1回目(3人班で話し合う)

(本時)

 - ・豆太は本当に臆病であるのか自分の考えを話し合う
 - (伝えやすいように豆太の気持ちメーターを使用する)
 - 【本文に書かれていることをもとに考えをもつ B
 - 本文に書かれていることをもとに自分の考えをもち,周りの人の意見を聞いて改めて考える A】
 - ・モチモチの木でもっと話したいことをだしていく
- 3 読書会 第2回目(テーマからしぼったものを使ってより深く話し合いたいことを話し合う)
 - ・第1回目に行なった読書会と同じ観点でそれぞれの考えを話し合う
 - じさまのはらいたは本当か,豆太は本当にモチモチの木に灯がともったのを見たのか
 - ・読書会を通して自分の考えはどうなったのかの振り返り
- 4~6 斎藤隆介さんの作品(ソメコとオニ,花さき山,かみなりむすめ,猫山,半日村,ひさの星)からくじで決まった本で,おすすめの図書カード作成する
 - ・相手と話したい事(問い)を見つけ図書カードに書く
- 7 書いた図書カードをよりよくするために周りで見せ合い
 - 周りの意見をもとに図書カードを直し完成
- 8,9 図書カード,本を読んで相手の問いに答える
 - ・図書カードにはそれぞれ作った人が相手と話したいこと(問い)を書くため,相手の問いに対して自分は本を読み,どう考えたのかを書く
 - ・振り返りを行う

